

令和6年度 第2回高崎市障害者支援協議会定例会 会議録

(要旨)

日 時 令和6年9月10日 14:00～15:20

場 所 高崎市保健所保健センター3階 第4会議室

1 出席者

(1) 委員

役職	団体名	氏名
会長	さわらび相談支援センター	丸橋 道代
	特定非営利活動法人 リンケージ	石川 京子
	医療法人 群馬会	齋藤 章一
	社会福祉法人 ゆずりは会	関根 安子
	社会福祉法人 二之沢愛育会	堤 慶太
	特定非営利活動法人 ノア	黛 俊子
	相談支援事業所シンシア	飯田 エミ子
	あい相談支援事業所	大竹 京子
	相談支援事業所ほっと	坂本 香織
	相談支援事業所くらりす	白石 律子

(2) 事務局

高崎市福祉部障害福祉課	横澤課長、飯野補佐、小田澤、情野
-------------	------------------

2 議題

(1) 個別事例への支援のあり方に関する協議

3 配布資料

資料1 課題報告シート3事例

4 議事内容

(1) 個別事例への支援のあり方に関する協議

【課題報告シート5】

療育手帳A2 強度行動障害のある男児で、特別支援学校高等部に入学後から学校へ行きたがらないことが増え、放課後等デイサービスも拒むようになり、引きこもりの状

態となった事例。集団での療育を目指すも本人にとって負担となり、個への支援に切り替えることが望ましいと思うが、個で利用できるサービスが少ない。特に強度高度障害児・者への受け入れを探すのは難しい。

（委員）強度行動障害が在宅で生活する中で、個別の部屋を用意し、できそうな活動をセッティングし、送迎は保護者をお願いしたケースがあった。有期限入所で２年間入所してもらった。アセスメントを繰り返し、入所先を見つける支援を行った。施設に入ってから、有期限先で行った支援を継続して個室対応も継続していた。しかし、素行は変わらなかった。入所施設では、なぜその子がそういう行動をとるのか、一度個室対応をやめて、集団活動に戻したところ、素行がなくなったケースがある。原因が何かというところに立ち返り、本人のサインを見逃さない、よくアセスメントをしてもらうことが大切であると考えます。

（委員）母と過ごす時間が長くなり、母が体調を崩し、本人がより調子が悪くなるケースが多い。家族が消耗しきらない前に、手だてが見つかるとういふ思う。

（委員）強度行動障害のサービスが少ないのは現状。その中でもこのケースは相談支援事業所を中心にアセスメントがもう少しできたらよかったのではないかと。

（委員）強度行動障害の人を受け皿が少ないのは、支援ができる人が少ない、スキルが不足しているということもある。ただ、強度行動障害の場合、幼少期からしっかりした療育を受けていれば、受けていない子に比べて成長したときに変わってくる。早期の療育が大切である。相談支援がどこまでできるか、すべきかはわからない部分がある。ただ、どこに原因があるのか関係者で探っていくことが必要であり、表面だけをどうにかしても根本解決にはならない。相談支援、利用先の事業所、行政で連携してスキルアップしていく必要がある。

（事務局）この事例は、強度行動障害で在宅生活をしている、不登校という問題もある。入所につなげる仕組みについては、群馬県のほうで強度行動障害の協議会を立ち上げ、施設入所の開拓をすすめているところであり、入所に関する課題については県の自立支援協議会で議論してもらいたいと考えている。今回のケースについては、在宅での支援の仕方に関しては、生活支援部会にて話をより具体的に議論をすすめていくべきだと考える。

（会長）異論なければ、今回の議題について、生活支援部会にて議論を進めることで決定する。

【課題報告シート6】

発達障害、躁鬱だが、手帳がない 51 歳の女性。高齢の母親と二人暮らしで、母親のケアマネジャーからの情報提供により関わり始めた事例。本人に困り感がなく、サービス利用に踏み切れない場合の関わり方が難しい。地域には支援が必要だが、本人たちからの発信がなく埋もれている人がいて、地域との連携や情報提供が重要である。

（委員）母と子3人ともに障害者のケースがいる。母が入院したが、子3人だけで生活し、大丈夫と言っていた。周りから見ると、大丈夫ではない。そのケースは20年以上関わっているが、いまだに相談支援と居宅支援が入っている程度。本人たちが求めているためどこまで入るべきか。関係者を増やしていくしかないと考えている。

（委員）施設入所だが、利用者の高齢化も進んでいるが、それに伴い家族も高齢化している。去年までフットワークよく動けた家族が、今年は動けずに支払うものが滞ったりするケースも散見される。困っていることを地域でもう少し吸い上げられたらと思う。

（委員）自宅が良くてなんだかんだ言っても自宅で暮らすケースがある。宿泊型自立訓練は以前は長期の入院患者の在宅に向けた支援として使われる傾向があったが、今は在宅で家族からの自立に向けて宿泊型自立訓練を利用するケースもある。グループホームやアパートでの生活となるとより経済的な負担があるため、まずこういうサービスで自立に向けて訓練があるという情報提供だけでもできるとよい。

（委員）学校卒業後引きこもり、最近就労B型を利用したケースで、利用者の母からは「こういうサービスを知らなかった。もっと早く利用すればよかった。」と言われ、もう少し必要な人に情報が行き渡る仕組みがあるとよい。また、別の事例で、ケアマネから病院に相談があり、相談員に相談がつながるケースがあり、結局関係者が関わっている中で、どこかにつなげたくてもどこにつなげればいいのかわからないということがあっているのではないかと。窓口がはっきりして、周知されることが必要である。

（委員）我々も「なんでも相談」をイオンなどでやることがある。敷居を低くしたとしても1日開催して1組2組程度しか来ない。敷居を低くというより、いつでも気軽に相談できる形があるとよい。

（会長）社会福祉法人がやっている「なんでも相談」のことでしょうか。なんでも相談は、高齢者でも子どもでもいろいろな分野の相談を受けてつないでくれる相談会で、社会福祉協議会がとりまとめて実施している。

（委員）逆のパターンで、障害者施設スタッフから保護者の認知症について相談があり対応したケースがあった。

（事務局）このような８０５０問題のケースについては、地域生活支援拠点事業の仕組みの中で、事前に把握し、拾い上げていく、体験につなげていく必要がある。皆さんの意見から、残された親については、介護保険のケアマネ等とも連携していくことが必要であるとする。このケースでは地域生活支援拠点部会で協議していくのはいかがか。

（会長）異論なければ、この議題について、地域生活支援拠点部会にて議論を進めることで決定する。

【課題報告シート７】

５７歳男性で、進行性筋ジストロフィーによる身体障害１級所持。喀痰吸引などの医ケア行為が必要なケース。対応できるヘルパーや短期入所が少ない。

（委員）夜勤に看護師がいらないため、対応が難しい。吸引ができる職員をそろえることが難しい。医療濃度が高くなると施設から対応を求められるケースは散見される。

（委員）子どもで医ケア児の場合で、母が結婚式に参列したいという希望の中で対応を検討した。短期入所がなかなか見つからず、困っていたが、最終的に障害者をみている事業所がどうか対応してくれると申し出てくれ、安堵した経験がある。医療濃度の高い子を介助している保護者の場合、わずかな時間しか離れる時間がないという負担感を感じる。

（委員）ALSのケースでは、介護保険と障害のサービスで併用したケースがあった。場合によっては、医療保険の訪問看護と障害の訪問看護で連携する場合もある。障害サービスだけでどうにかしようというのは不足して難しい場合がある。医療機関は、定期的に看てもらっていると、レスパイトで対応してくれることもある。自動吸引の機械やエアマットについてもレンタルができる場合もあるなど、ほかのサービスと連携しながら対応するとよいのでは。

（委員）支援の力の限界もあると思うが、ニーズがどれだけあるのかというのがわかれば、我々にどのような支援ができるか検討ができると思う。

（会長）医ケアの問題、ニーズは少ないがある。相談支援にはニーズが届いていると思う。

（事務局）筋ジスの方は、在宅生活を望むケースが多い。重度訪問介護や身体介護を利用しながら生活している。医療行為があるために、家族が主で介護をし、そばから離れないという事情もわかる。障害だけでなく、医療機関と巻き込んで支援していくことは大切である。このような重度の方を地域でどのように支援していくか審議していくため、生活支援部会のほうでさらに協議していくことはいかがか。

（会長）異論なければ、この議題について、生活支援部会にて議論を進めることで決定する。

（事務局）前回審議したシート3については、生活支援部会で審議すると話し合ったが、強度行動障害の受け入れの問題のため、県の自立支援協議会に挙げていきたい。また、裏側の強度行動障害の事例についても同様に県の自立支援協議会に挙げていきたい。

4. その他

（委員）子ども発達支援協議会で集約シートについて力を入れてやってきた。そのシートは乳幼児期から発達に応じてトータル支援について観ることができるのではないか。

（事務局）子ども発達支援協議会の事務局とまた連携を図っていきたい。

（委員）SOS センターとの関わり方についてどうしたらよいか。

（事務局）総合相談窓口ではあるが、すべて解決は難しい。相談内容を聞いてつなぐ窓口である。解決につなげたいものは障害福祉課の基幹担当につないでもらいたい。

（委員）個別ケースから地域課題を出していくのは良いことだった。当事者が課題として感じているものが出てきていない。もし市に入っている課題があれば、それを一つでもいいので挙げてもらうのはいかがか。

（事務局）来年度はぜひ挙げさせていただきたい。